

2013

消防団概況

三重県松阪市

ごあいさつ



松阪市消防団の歴史は古く、寛政 6 年（1794 年）に消防制度が初めて布かれたのがその始まりであるとされています。私はこの長い歴史と伝統を持つ松阪市消防団の第 10 代団長に就任いたしました。17 万人の市民の安全・安心を守る重要な使命に責任感と緊張感を感じながら職務を遂行しております。

私たち消防団は「自分たちのまちは自分たちで守る」という郷土愛の精神に基づき、普段はそれぞれの仕事を持ちながら、災害時には常備消防と連携して消火活動や救助活動に取り組んでおります。災害出動などの消防団活動は昼夜を問わず、団員に係る精神的・肉体的負担は大きく、家庭や職場の皆様のご理解ご協力が不可欠であります。

こうした中松阪市消防団は、近い将来発生が危惧されております南海トラフ巨大地震等に備え、各分団に救助資機材を配備するとともに、消防団活動は時として危険が伴うこともあるため、ライフジャケット、トランシーバー等団員の安全装備面を充実させ、団員が活動しやすい環境づくりを整えながら、日々の訓練に取り組んでいます。

また、東日本大震災や、全国各地で地震が頻発しているほか、集中豪雨や大型台風の影響など自然災害の更なる脅威が危惧されているところです。

このような中、地域の安全と市民生活の安心を確保するうえで、消防団に寄せる市民の期待は、ますます大きくなってきております。

引き続き市民の負託に応えられるよう、組織の充実・強化を図り、魅力ある消防団を目指し邁進して行きたいと考えておりますので、皆様のご支援・ご協力を心よりお願いいたします。

松阪市消防団統括団長 小林 憲行

松 阪 市 の 概 要

< 1 > 位置と地勢

松阪市は、三重県のほぼ中央に位置し、東は伊勢湾、西は台高山脈と高見山地を境に奈良県に、南は多気郡、北は雲出川を隔てて津市に接しています。

地形は、西部一帯が台高山脈、高見山地、紀伊山地からなる山岳地帯、中央部は丘陵地で、東部一帯には伊勢平野が広がり、北部を雲出川、南部を櫛田川が流れています。



松阪市は後の三越の前身越後屋を江戸に開店させた三井グループ創始者の三井高利の生誕地であり、古くは商業の街として知られるとともに、「古事記伝」の執筆で著名な国学者本居宣長翁、「北海道の名付け親」松浦武四郎翁など優れた先人も多く輩出しています。

また名産の松阪牛は高級ブランド牛肉として、珍重されています。

< 2 > 気候

概ね東海型の気候区に属し、西部は寒暑の差がやや大きく内陸的な特性を持っています。

年間平均気温は 14℃～16℃で、降水量は平野部では 1,500mm 程度ですが、山間部では 2,000～2,500mm とかなり多くなっています。

全般的には温暖でおだやかな気候となっています。

< 3 > 面積

東西 50Km、南北 37Km と東西に長く伸び、総面積で 623.77Km² を有し、三重県全体の約 10.8% を占めています。用途別にみると、耕地 77.10Km² (12.4%)、宅地 29.89Km² (4.8%)、山林 427.71Km² (68.6%) となっており山林の占める割合が高くなっています。

< 4 > 人口と世帯

平成 25 年 4 月 1 日現在の総人口は 169,681 人で、県全体の約 9% を占めています。

総世帯数は 70,784 世帯で、昭和 60 年の 45,826 世帯に比べ 25 年間で約 1.6 倍の伸びを示しており、1 世帯当たりの人員は 2.4 人となり、核家族化が進んでいます。

人口と世帯数の推移

(単位：人)

区 分	昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 25 年
総人口	158,155	159,625	163,131	164,504	168,976	169,681
世帯数	45,826	48,273	52,413	56,087	61,502	70,784
1世帯当たりの人員	3.45	3.31	3.11	2.93	2.75	2.40

< 5 > 市の沿革

旧松阪市

明治 22 年	市町村制の実施により松阪町となる。
昭和 8 年 2 月	市制施行により松阪市となる。
昭和 23 年 12 月	松江村、朝見村 編入。
昭和 26 年 12 月	伊勢寺村 編入。
昭和 27 年 12 月	機殿村 編入。
昭和 29 年 10 月	花岡町、東黒部村、西黒部村、港村、阿坂村、松ヶ崎村、松尾村 編入。
昭和 30 年 3 月	宇気郷村袖原、飯福田、与原、後山 編入。
昭和 30 年 4 月	漕代村、射和村、茅広江村、大石村 編入。
昭和 32 年 10 月	大河内村、櫛田村 編入。

旧嬉野町

明治 22 年	市町村制の実施により中郷村、豊地村、中川村、豊田村、中原村となり、小原、上小川、柚原、後山、飯福田、与原が宇気郷村となる。
昭和 30 年 3 月	中郷村、豊地村、中川村、豊田村、中原村並びに宇気郷村大字小原、大字上小川の区域をもって嬉野町となる。

旧三雲町

明治 22 年	市町村制の実施により米ノ庄村・天白村・鵠村・小野江村が成立。
昭和 30 年 3 月	4 ケ村が合併、三雲村として発足。
昭和 61 年 3 月	町制施行により三雲町となる。

旧飯南町

明治 22 年	市町村制の実施により柿野村、粥見村が成立。
大正 13 年 1 月	柿野村が町制施行により柿野町となる。
昭和 8 年 2 月	粥見村が町制施行により粥見町となる。
昭和 31 年 8 月	柿野町、粥見町が合併し飯南町となる。

旧飯高町

明治 22 年	市町村制の実施により宮前村、川俣村、森村、波瀬村の 4 ケ村が発足。
昭和 31 年 8 月	4 ケ村が合併し飯高町となる。

平成 17 年 1 月 1 日 松阪市、一志郡嬉野町、一志郡三雲町、飯南郡飯南町、飯南郡飯高町の 5 市町の合併により現松阪市となる。

< 6 > 消防団の沿革

旧松阪市消防団の沿革

寛政 6年	松阪に消防制度がはじめて布かれた。
明治29年 4月 1日	松阪消防組が編成された。
昭和14年 5月 1日	戦時体制となり、松阪市警防団と改称された。
昭和23年 8月 1日	消防組織法の施行により松阪市消防団として発足する。
昭和41年 8月 1日	現機構の23分団（432名）となる。（以前は28分団982名）
昭和42年 10月 1日	現機構の団員定数415名となる。
平成12年 7月13日	現機構の団員定数425名となる。
平成12年 8月20日	女性消防団員15名が誕生、さくら分団となる。

旧嬉野町消防団の沿革

昭和34年 3月26日	消防団条例施行による消防団設置規則で、6分団編成となる。
平成 8年 3月29日	嬉野町消防団設置規則改正により、団員定数250名となる。
平成 8年 4月 1日	女性消防団員20名が誕生、やまゆり分団となる。

旧三雲町消防団の沿革

昭和30年 3月21日	4ヶ村合併により、三雲村消防団発足。（団長以下305名、4分団）
昭和32年 3月30日	消防団条例制定。
昭和56年 2月 1日	消防団条例改正により団員定数265名となる。
昭和61年 4月 1日	町制施行に伴う名称変更のため三雲町消防団となる。

旧飯南町消防団の沿革

昭和31年 8月 1日	飯南町消防団発足。（団長以下237名、12分団）
昭和45年 3月16日	消防団条例改正により団員定数200名となる。
昭和48年 8月 4日	消防団区域規定改正により4分団となる。
平成 3年 4月 1日	女性消防団員20名が誕生、ひまわり分団となる。 消防団条例改正により団員定数220名となる。

旧飯高町消防団の沿革

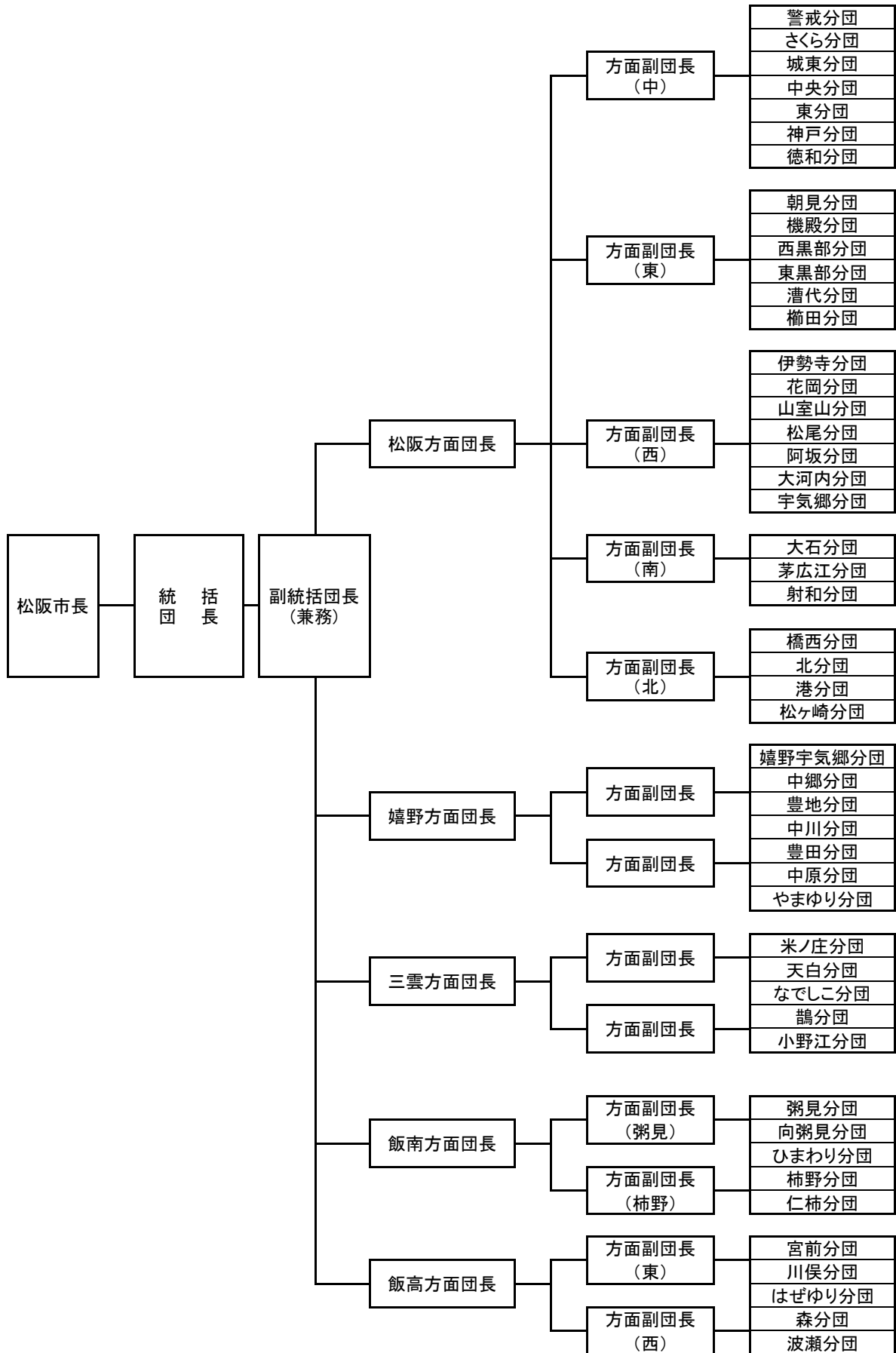
昭和31年 9月	町村合併により飯高町消防団として発足する。（団長以下370名）
昭和35年 4月	消防団条例改正により副団長を1名とし、団員定数360名となる。
昭和60年 3月	消防団条例改正により団員定数260名となる。
平成 2年 4月	女性消防団員6名が誕生、はぜゆり分団となる。 消防団員定数260名のうち女性団員数20名とする。
平成 4年 4月	消防団設置規則の改正により副団長を2名とし、団長以下260名となる。

松阪市消防団（新）

平成17年	1月	1日	1市4町の合併により、旧松阪市・旧嬉野町・旧三雲町・旧飯南町・旧飯高町各消防団を統一し、松阪市消防団となる。
			団員定数 1,420 名。
平成17年	4月	1日	三雲方面団に女性消防団員 10 名入団、なでしこ分団となる。
平成17年	4月	17日	新松阪市消防団結団式挙行。 新基準活動服貸与開始。
平成17年	6月	9日	電子メールによる団幹部への災害連絡開始。
平成17年	12月	20日	全分団に消防団波携帯無線電話機配備。
平成18年	3月	20日	新基準盛夏服貸与開始。
平成18年	4月	1日	嬉野方面団の副団長を 1 名から 2 名とする。 組織改編により、松阪方面団に 3 分団（東分団(旧中央分団東町班)・神戸分団(旧神戸分団を徳和分団、神戸分団に分割増員)・花岡分団(旧花岡分団大黒田班を花岡分団に、同山室班を山室山分団に分割増員)）1 班（橋西分団 2 班）を追加し、各分団団員定数を改正する。
平成19年	2月	21日	消防団員増員等の実績、消防庁長官より地域活動特別表彰 枠での表彰を受ける。
平成19年	4月	1日	松阪市消防団協力事業所表示制度施行。
平成19年	9月	1日	団員定数 1,420 名の確保。
平成20年	3月	7日	日本消防協会 特別表彰「まとい」受章。
平成20年	3月	16日	特別表彰「まとい」受章記念 披露式挙行。
平成21年	2月	27日	消防・防災訓練センター 消防訓練塔竣工。
平成22年	8月	26日	総務省消防庁より「消防団救助資機材搭載型車両」を貸与される。
平成23年	4月	1日	消防団員の処遇改善を目的として、団員報酬を見直し、松阪市消防団条例の一部を改正する。
平成25年	2月	26日	日本消防協会 「優良消防団（表彰旗）」受章

<7> 松阪市消防団の組織

(団長以下5方面団 49分団 定数1,420名)



消防団の定数

平成 25 年 4 月 1 日現在

区分 地区・分団	統 括 団 長	方 面 団 長	方 面 副 団 長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	班 長	団 員	合 計
昨年実績	1	5	12	49	49	69	154	1,081	1,420
今年実員	1	5	12	48	48	66	149	1,041	1,370

消防団本部 統括団長		1								1		
松 阪 方 面 団	本 部			1	5					6		
	警 戒 分 団					1	1	1	1	11	15	
	さくら分団					1	1	1	2	13	18	
	中地区	城 東 分 団					1	1	1	1	14	18
		中 央 分 団					1	1	1	1	17	21
		東 分 団					1	1	1	1	11	15
		神 戸 分 団					1	1	1	1	10	14
		徳 和 分 団					1	1	1	1	11	15
		朝 見 分 団					1	1	1	1	12	16
	東地区	機 殿 分 団					1	1	1	1	13	17
		西黒部分団					1	1	1	1	12	16
		東黒部分団					1	1	1	1	13	17
		漕 代 分 団					1	1	1	1	13	17
		櫛 田 分 団					1	1	1	1	14	18
		伊勢寺分団					1	1	1	2	16	21
	西地区	花 岡 分 団					1	1	1	1	8	12
		山室山分団					1	1	1	1	14	18
		松 尾 分 団					1	1	1	2	15	20
		阿 坂 分 団					1	1	1	2	15	20
		大河内分団					1	1	1	3	19	25
		宇気郷分団					1	1	1	2	12	17
		大 石 分 団					1	1	1	2	16	21
	南地区	茅広江分団					1	0	0	2	16	19
		射 和 分 団					1	1	1	3	19	25
		橋 西 分 団					1	1	1	2	18	23
	北地区	北 分 団					1	1	1	2	15	20
		港 分 団					1	1	1	1	13	17
		松ヶ崎分団					0	1	1	2	14	18
		合 計		1	1	5	26	26	26	41	374	500

地区・分団		区分	方面 団長	方面 副団長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	班 長	団 員	合 計
嬉 野 方 面 団	本 部		1	1			1	2	24	29
	やまゆり分団				1	1	1	2	9	14
	嬉野宇気郷分団				1	1	1	2	20	25
	中郷分団				1	1	1	2	25	30
	豊地分団				1	1	1	4	31	38
	中川分団				1	1	1	5	30	38
	豊田分団				1	1	1	5	35	43
	中原分団				1	1	1	2	36	41
	合 計		1	1	7	7	8	24	210	258

三 雲 方 面 団	本 部		1	2						3
	なでしこ分団				1	1	1	1	9	13
	米ノ庄分団				1	1	4	10	40	56
	天白分団				1	1	3	9	45	59
	鵜分団				1	1	2	4	35	43
	小野江分団				1	1	3	6	38	49
	合 計		1	2	5	5	13	30	167	223

飯 南 方 面 団	本 部		1	2					5	8
	ひまわり分団				1	1	1	1		4
	粥見分団				1	1	2	5	51	60
	柿野分団				1	1	2	8	49	61
	仁柿分団				1	1	2	3	25	32
	向粥見分団				1	1	2	5	19	28
	合 計		1	2	5	5	9	22	149	193

飯 高 方 面 団	本 部		1	2						3
	はぜゆり分団				1	1	1	1	7	11
	宮前分団				1	1	3	11	57	73
	川俣分団				1	1	2	10	30	44
	森分団				1	1	2	6	23	33
	波瀬分団				1	1	2	4	24	32
	合 計		1	2	5	5	10	32	141	196

運用中消防車両及びポンプ一覧
松阪方面団

平成 25 年 4 月 1 日現在

分団		消防車両			小型動力ポンプ	
		積載車両	年式	種別	B-3級	台数
1	消防団本部	トヨタ	H 4 年 1 0 月	普通	トーハツ H 8	1
2	消防団本部	ホンダ	H 1 5 年 1 2 月	普通		
3	消防団本部	日産	H 1 8 年 9 月	普通		
4	消防団本部 (総務省消防庁より借受)	イスズ	H 2 2 年 8 月	普通	トーハツ H 2 2	1
5	消防団本部	ホンダ	H 1 年 1 1 月	軽		
6	警戒分団	日産	H 2 1 年 1 2 月	普通		
7	城東分団	日産	H 1 3 年 1 2 月	普通	シバウラ H 1 3	1
8	中央分団	日産	H 1 6 年 1 0 月	普通	シバウラ H 1 6	1
9	東分団	日産	H 1 9 年 1 0 月	普通	ラビット H 2 0	1
10	神戸分団	日産	H 1 8 年 1 2 月	普通	シバウラ H 1 8	1
11	徳和分団	トヨタ	H 7 年 1 月	普通	シバウラ H 7	1
12	朝見分団	日産	H 8 年 1 2 月	普通	シバウラ H 8	1
13	機殿分団	日産	H 2 4 年 2 月	普通	シバウラ H 2 4	1
14	西黒部分団	トヨタ	H 7 年 1 2 月	普通	ラビット H 7	1
15	東黒部分団	トヨタ	H 1 8 年 3 月	普通	ラビット H 1 7	1
16	漕代分団	トヨタ	H 1 5 年 1 1 月	普通	ラビット H 1 5	1
17	櫛田分団	トヨタ	H 1 5 年 1 1 月	普通	ラビット H 1 5	1
18	伊勢寺分団伊勢寺班	トヨタ	H 7 年 1 月	普通	シバウラ H 7	1
19	伊勢寺分団荒井班	ダイハツ	H 1 3 年 1 2 月	軽	ラビット H 1	1
20	花岡分団	トヨタ	H 1 5 年 2 月	普通	トーハツ H 1 5	1
21	山室山分団	日産	H 1 8 年 1 2 月	普通	シバウラ H 1 8	1
22	松尾分団丹生寺班	いすゞ	H 1 3 年 2 月	普通	ラビット H 1 3	1
23	松尾分団西野班	ダイハツ	H 1 2 年 3 月	軽	ラビット H 1	1
24	阿坂分団阿坂班	日産	H 1 6 年 1 0 月	普通	シバウラ H 1 6	1
25	阿坂分団美濃田班	ダイハツ	H 1 2 年 1 2 月	軽	シバウラ H 5	1
26	大河内分団大河内班	トヨタ	H 1 2 年 3 月	普通	トーハツ H 1 2	1
27	大河内分団笹川班	ダイハツ	H 1 3 年 1 2 月	軽	シバウラ H 2	1
28	大河内分団辻原班	三菱	H 1 0 年 1 2 月	軽	シバウラ S 6 3	1
29	宇気郷分団柚原班	日産	H 2 4 年 2 月	普通	ラビット H 2 4	1
30	宇気郷分団与原班	日産	H 2 0 年 1 2 月	普通	トーハツ H 2 0	1
31	大石分団小片野班	トヨタ	H 7 年 1 2 月	普通	ラビット H 7	1
32	大石分団大石班	三菱	H 1 0 年 1 2 月	軽	ラビット H 4	1
33	茅広江分団下茅原班	トヨタ	H 1 2 年 3 月	普通	シバウラ H 7	1
34	茅広江分団広瀬班	ダイハツ	H 1 2 年 1 2 月	軽	シバウラ H 3	1
35	射和分団射和班	日産	H 2 1 年 1 2 月	普通	ラビット H 2 1	1
36	射和分団庄班	ダイハツ	H 1 3 年 1 2 月	軽	ラビット H 1 0	1
37	射和分団上蛸路班	ダイハツ	H 1 2 年 3 月	軽	ラビット S 6 2	1
38	橋西分団 1 班	日産	H 8 年 1 2 月	普通	シバウラ H 8	1
39	橋西分団 2 班	ダイハツ	H 1 8 年 1 2 月	軽	トーハツ H 1 8	1
40	北分団大口班	トヨタ	H 1 8 年 3 月	普通	ラビット H 1 7	1
41	北分団鎌田班	いすゞ	H 1 3 年 2 月	普通	ラビット H 1 3	1
42	港分団	日産	H 1 3 年 1 2 月	普通	シバウラ H 1 3	1
43	松ヶ崎分団松崎浦班	トヨタ	H 2 2 年 1 0 月	普通	トーハツ H 2 2	1
44	松ヶ崎分団六軒班	ダイハツ	H 1 3 年 1 2 月	軽	トーハツ H 1 2	1

嬉野方面団

分団		消防車両			小型動力ポンプ	
		積載車両	年式	種別	B-3級	台数
1	本部	スバル	H12年 3月	軽		
2	本部	ホンダ	H17年 3月	普通		
3	本部班	いすゞ	H13年10月	普通	ラビット H13	1
4	嬉野宇気郷分団	いすゞ	H11年12月	普通	ラビット H11	1
5	嬉野宇気郷分団上小川班	ホンダ	H 5年12月	軽	ラビット H 5	1
6	中郷分団	いすゞ	H12年11月	普通	ラビット H12	1
7	豊地分団	トヨタ	H10年12月	普通	ラビット H10	1
8	中川分団	いすゞ	H11年12月	普通	ラビット H11	1
9	豊田分団	トヨタ	H10年12月	普通	ラビット H10	1
10	中原分団	いすゞ	H12年11月	普通	ラビット H12	1

三雲方面団

分団		消防車両			小型動力ポンプ	
		積載車両	年式	種別	B-3級	台数
1	本部				ラビット H18	1
2	米ノ庄分団第1部久米	ダイハツ	H19年10月	軽	シバウラ H19	1
3	米ノ庄分団第2部市場庄	日産	H16年12月	普通	ラビット H16	1
4	米ノ庄分団第3部中ノ庄	ダイハツ	H19年10月	軽	シバウラ H19	1
5	米ノ庄分団第4部上ノ庄	ダイハツ	H18年 3月	軽	トーハツ H18	1
6	天白分団第1部 曾原	日産	H16年 2月	普通	ラビット H16	1
7	天白分団第2部 小津	ダイハツ	H19年10月	軽	シバウラ H19	1
8	天白分団第3部 中道	ダイハツ	H18年 3月	軽	トーハツ H18	1
9	鵜分団第1部 笠松	ダイハツ	H19年10月	軽	シバウラ H19	1
10	鵜分団第2部 星合	ダイハツ	H14年 1月	軽	ラビット H14	1
11	鵜分団第2部 岡田				ラビット H17	1
12	鵜分団第3部 五主	ダイハツ	H18年11月	軽	トーハツ H18	1
13	小野江分団第1部西小野江	トヨタ	H10年 8月	普通	ラビット H10	1
14	小野江分団第1部東小野江				ラビット H 2	1
15	小野江分団第2部 肥留	ダイハツ	H18年11月	軽	トーハツ H18	1
16	小野江分団第3部 甚目				ラビット H 2	1
17	小野江分団第3部 舞出	ダイハツ	H19年10月	軽	シバウラ H19	1

飯南方面団

分団		消防車両			小型動力ポンプ	
		積載車両	年式	種別	B-3級	台数
1	本部	トヨタ	H17年11月	普通	シバウラ H17	1
2	本部	三菱	H 8年 9月	軽		
3	本部				トーハツ H22	1
4	本部				ラビット H 4	1
5	粥見分団1班	日産	H20年12月	普通	トーハツ H20	1
6	粥見分団2班	スバル	H23年12月	軽	ラビット H23	1
7	粥見分団3班	ダイハツ	H22年11月	軽	トーハツ H22	1
8	粥見分団4班	日産	H21年12月	普通	ラビット H21	1
9	粥見分団5班	スバル	H21年12月	軽	ラビット H21	1
10	粥見分団6班	ダイハツ	H22年11月	軽	トーハツ H22	1
11	柿野分団1班	ホンダ	H12年11月	軽	シバウラ H12	1
12	柿野分団2班	スバル	H23年12月	軽	ラビット H23	1
13	柿野分団3班	ダイハツ	H21年11月	軽	シバウラ H21 (B2)	1
14	柿野分団4班	ホンダ	H 7年 3月	軽	シバウラ H 7	1
15	柿野分団5班	ホンダ	H 8年 2月	軽	トーハツ H 8	1
16	柿野分団6班	ホンダ	H 9年 3月	軽	ラビット H 9	1
17	柿野分団7班	スバル	H21年12月	軽	ラビット H21	1
18	柿野分団8班	ダイハツ	H19年12月	軽	トーハツ H19	1
19	仁柿分団1班	ダイハツ	H21年11月	軽	シバウラ H21 (B2)	1
20	仁柿分団2班	スバル	H18年12月	軽	ラビット H18	1
21	仁柿分団3班	ダイハツ	H21年11月	軽	シバウラ H21 (B2)	1
22	向粥見分団1班	スバル	H21年12月	軽	ラビット H21	1
23	向粥見分団2班	ホンダ	H11年12月	軽	ラビット H 4	1
24	向粥見分団3班	ホンダ	H13年12月	軽	シバウラ S60	1
25	向粥見分団4班	スバル	H23年12月	軽	ラビット H23	1
26	向粥見分団5班	日産	H21年12月	普通	ラビット H21	1

飯高方面団

分団		消防車両			小型動力ポンプ	
		積載車両	年式	種別	B-3 級	台数
1	本部				ラビット H18	1
2	宮前分団1班 下滝野	日産	H21年11月	普通	シバウラH21 (B2)	1
3	宮前分団1班 下滝野				ラビット H11	1
4	宮前分団2班 宮前	日産	H21年11月	普通	シバウラH21 (B2)	1
5	宮前分団2班 宮前				ラビット S60 (C1)	1
6	宮前分団3班 作滝	トヨタ	H17年12月	普通	トーハツ H17	1
7	宮前分団3班 作滝				ラビット H 5	1
8	宮前分団3班 赤桶	スバル	H 9年 3月	軽	ラビット H 9	1
9	川俣分団1班 田引	日産	H18年12月	普通	ラビット H18	1
10	川俣分団2班 栗野	スバル	H17年12月	軽	ラビット H17	1
11	川俣分団2班 栗野				ラビット H 5	1
12	川俣分団2班 富永	日産	H21年11月	普通	トーハツ H21	1
13	川俣分団2班 富永				ラビット H 6	1
14	川俣分団2班 富永				ラビットH18 (C1)	1
15	川俣分団3班 宮本	ダイハツ	H19年12月	軽	トーハツ H19	1
16	川俣分団3班 宮本				ラビット H18	1
17	川俣分団3班 七日市	スバル	H10年 3月	軽	ラビット H10	1
18	森分団1班 犬飼				ラビット H10	1
19	森分団1班 深野	スバル	H18年12月	軽	ラビット H18	1
20	森分団2班 家野	日産	H21年11月	普通	トーハツ H21	1
21	森分団2班 家野				ラビット S40 (C1)	1
22	森分団2班 久谷	日産	H20年12月	普通	トーハツ H20	1
23	森分団3班 塩ヶ瀬	スバル	H10年10月	軽	ラビット H10	1
24	波瀬分団1班 乙栗子	ダイハツ	H19年12月	軽	トーハツ H19	1
25	波瀬分団1班 乙栗子				ラビット H 5	1
26	波瀬分団1班 加波	日産	H20年12月	普通	トーハツ H20	1
27	波瀬分団1班 桑原	スバル	H17年12月	軽	ラビット H17	1
28	波瀬分団2班 波瀬	日産	H21年11月	普通	トーハツ H21	1
29	波瀬分団2班 美滝	日産	H18年12月	普通	ラビット H18	1

方面団別	小型動力ポンプ付車両		その他車両		小型動力ポンプ等	
	普通車両	軽車両	普通車両	軽車両	B-3 (2)	その他
松阪方面団	29	11	3	1	40	
嬉野方面団	7	1	1	1	8	
三雲方面団	3	10			17	
飯南方面団	4	19		1	25	
飯高方面団	10	8			26	3
団合計	53	49	4	3	116	3

消防団員の処遇

報 酬（年額）

（単位：円）

統括団長	副統括団長	方面団長	方面副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
120,000	80,000	80,000	60,000	50,000	35,000	32,000	31,000	30,000

訓練等出場手当

1 人、1 回につき 3,500 円

水火災等出動手当

1 人、1 回につき 4,000 円

機械器具点検手当

1 人、年額 4,800 円

入校手当

1 人、1 日につき 7,000 円

ラッパ隊手当

1 人、年額 7,000 円

隊長手当、年額 3,000 円

※ 注）報酬及び諸手当は年間 2 回に分割して支給

公務災害補償等

団員が公務により死亡し、負傷し、若しくは疾病等にかかった場合には、その団員又はその者の遺族若しくは被扶養者に対し損害を補償します。

退職報償金

団員が退職した場合には、別に定める退職報償金を支給します。

被服等の支給及び貸与

活動服、アポロキャップ、ヘルメット、団員手帳、長靴 …………… 全員

T シャツ、雨衣、ケブラー手袋

盛夏服 …………… 全員

制服、制帽 …………… 分団長以上及び女性団員

消防団の主な活動

<1>全市的に行う訓練行事等

本部幹部会議
出初式
辞令交付式（入団式）入団者訓練 幹部研修
松阪市消防団小型ポンプ操法大会

<2>各方面団で行う訓練行事等

方面団幹部会議
夏季訓練
防災訓練
水防訓練
防火パレード
年末防火広報火災予防運動
普通救命講習会
年末夜警
地元放水訓練
ラッパ隊訓練
消防団車庫点検
祭り等の警備

<3>女性消防団の活動

普通救命講習会
人形劇（防火・救急啓発）
防火パレード
防火チラシ配布
年末防火広報

<4>その他広報活動

消防団ホームページによる広報
（ <http://www.city.matsusaka.mie.jp/> ）
ケーブルテレビ（防火啓発）

平成 24 年度消防団活動一覧

	日	曜日	松阪方面団 行事	嬉野方面団 行事	三雲方面団 行事	飯南方面団 行事	飯高方面団 行事
4	3	火	団本部幹部会議				
	5	木	方面団幹部会議				
	7	土		方面団幹部会議			
	8	日		方面団幹部訓練			
	9	月				方面団幹部会議	方面団幹部会議
	10	火	松阪市消防団幹部歓迎会				
	12	木			方面団幹部会議		
	15	日	分団長以上訓練				
	22	日	新入団員辞令交付式・入団者訓練				
	24	火	松阪地区消防団協議会（松阪・多気・明和団長会議）				
5	9	水			方面団幹部会議		
	13	日				機械器具操作訓練	
	20～21	日～月	消防団行政視察研修（和歌山県/和歌山市消防局）				
	24	木	団本部幹部会議				
	26	土		方面団幹部会議			
	27	日		方面団春季訓練			
	29	火	方面団幹部会議				
	31	木				方面団幹部会議	方面団幹部会議
6	3	日				AFT 訓練	
	10	日	第 1 回安全運転研修				
	12	火	操法指導員研修会				
	12	火	団長会議				
	17	日	松阪市水防訓練				
	24	日	操法出場隊指導（訓練センター）				
	24	日			AFT 訓練		
	30	土				方面団夏季訓練	
7	1	日	第 2 回安全運転研修				
	12	木	水防訓練反省会				
	13	金				方面団幹部会議	
	21	土	三重県消防操法大会				
	21	土		おおきんまつり 警備・広報			
8	2	木	団本部会議				
	6	月				方面団幹部会議	

	日	曜日	松阪方面団 行事	嬉野方面団 行事	三雲方面団 行事	飯南方面団 行事	飯高方面団 行事
	7	火	方面団幹部会議				
	11	土				方面団幹部会議	
	13～15	月～水					夏祭り警護
	19	日		方面団幹部会議			
	22	水					方面団幹部会議
	31	金	八朔祭り警護				
	5	水			方面団幹部会議		
9	8～9	土～日	三重県消防学校 指導員科入校				
	9	日	健康 フェスティバル				
	16	日	AFT 訓練				
	29	土		方面団幹部会議			
10	3	水	団本部幹部会議				
	4	木					方面団幹部会議
	6～7	土～日	三重県消防協会 松阪支会 視察研修～東京～				
	10	水	第3級陸上特殊無線技士免許講習				
	11	木			方面団幹部会議		
	14	日	松阪市消防団小型ポンプ操法大会				
	14	日		方面団幹部会議			
	21	日	松阪市総合防災訓練				
11	3～4	土～日	三重県消防学校 幹部科入校				
	11	日	車庫点検				
	18	日				ふれあい祭り	
	30	金	団本部幹部会議				
12	2	日	消防団員健康診断				
	2	日					本部点検
	4	火	方面団幹部会議				方面団幹部会議
	5	水		方面団幹部会議			
	6	木			方面団幹部会議	方面団幹部会議	
	14	金	三重県消防協会 松阪支会 理事会(意見交換会)				
	15	土					消防団員健康診断
	18	火	方面団年末 意見交換会				
	20	木	団本部年末意見交換会				
	26	水	団本部幹部会議				

	日	曜日	松阪方面団	嬉野方面団	三雲方面団	飯南方面団	飯高方面団
			行事	行事	行事	行事	行事
	29	土				方面団幹部会議	
	30	日	年末夜警	年末夜警	年末夜警	年末夜警(29・30 日)	年末夜警
1	6	日	松阪市消防出初式（松阪市民文化会館・鈴の森公園）				
	13	日				新春一斉放水訓練	
2	3	日	消防団員一日教育（警防講習会・消防学校）				
	5	火	団本部幹部会議				
	7	木				方面団幹部会議	方面団幹部会議
	8	金	方面団幹部会議				
	15	金				飯南・飯高合同幹部図上訓練	
	16～17	土～日	消防団員一日教育（警防講習会・消防学校）				
	26	火	第 65 回 日本消防協会定例表彰式				
3	2～3	土～日	春季全国火災予防運動				
	5	火	団本部会議臨時会				
	12	火	方面団幹部会議		方面団幹部会議		方面団幹部会議
	17	日	三重県消防大会				
	24	日		方面団幹部会議 車庫点検			

消防団の取組み等

1 災害への対応能力の向上

(1) 大規模地震を想定した災害対応図上訓練

大規模地震発生時における消防団の対応力の向上、及び関係機関等との連携強化により、更なる地域防災力の強化を図ることを目的として、平成 22 年度から図上訓練を実施している。



(図上訓練の様子)

(2) 津波発生による避難訓練

東日本大震災による津波被害を受け、住民を確実かつ安全に避難させるため、図上訓練だけではなく、実際の避難場所まで歩いて、避難経路、時間等の検証を行い課題等を検証した。今後も各方面団、地区にあった避難経路等を検証し、住民を確実かつ安全に避難誘導できるように実施していく。



(避難訓練の様子)

(3) 消防訓練塔を活用した消火訓練

消防団員が火災活動を迅速・確実に対応するための技術を身に付けるための訓練施設「消防訓練塔」を松阪市消防・防災訓練センターに設置し、火災対応訓練等の訓練を定期的の実施している。



(消防訓練塔を活用した消火訓練の様子)

2 通信体制の整備

東日本大震災を受け、更なる通信体制を確立し最前線で活動している団員がより安全に活動できるよう、分団内での通信を充実させるために各車両に3機のトランシーバーと情報収集用ラジオを配備する。

火災や地震・風水害等の災害発生時、消防団が効果的な活動を行うためには、指揮統制や情報の共有等が必要不可欠となることから、平成15年度から消防団波の携帯無線を各分団に計画的に配備し、現在、135基の携帯無線機を活用し、消防団活動を実施している。



(無線機取扱訓練の様子)

3 安全管理体制の確立

(1) 安全管理員と伝令員の設定

消防団活動の安全管理の徹底を図るため、現場で団員の活動を監視し、危険行動等の危険要因を排除する安全管理員（副分団長）と、現場指揮本部と現場活動中の分団長の無線連絡を専門に行う伝令員（部長又は班長）を各分団で任命し、災害現場等での事故防止に努めている。また、安全管理員と伝令員には、それぞれ反射ベストと腕章の装着を義務付けている。



（訓練での安全管理員の様子）



（伝令員の無線訓練の様子）

(2) 安全運転研修の実施

平成 19 年度から自動車学校での運転適性検査、消防車両を使用した緊急運転診断、同乗者安全確認診断等の安全運転研修事業を行い、車両運用時の安全管理の徹底を図っている。



（緊急運転診断の様子）



（運転適性検査の様子）

4 防火・救急啓発活動

火災予防思想や、応急手当に関する正しい知識と技術を地域住民に対して、解りやすく、また幅広く普及させるため、平成 20 年から女性消防団による手作りの人形劇による防火・救急啓発活動を展開している。



(イベントでの人形劇の様子)

松阪市消防団の無線機配置図

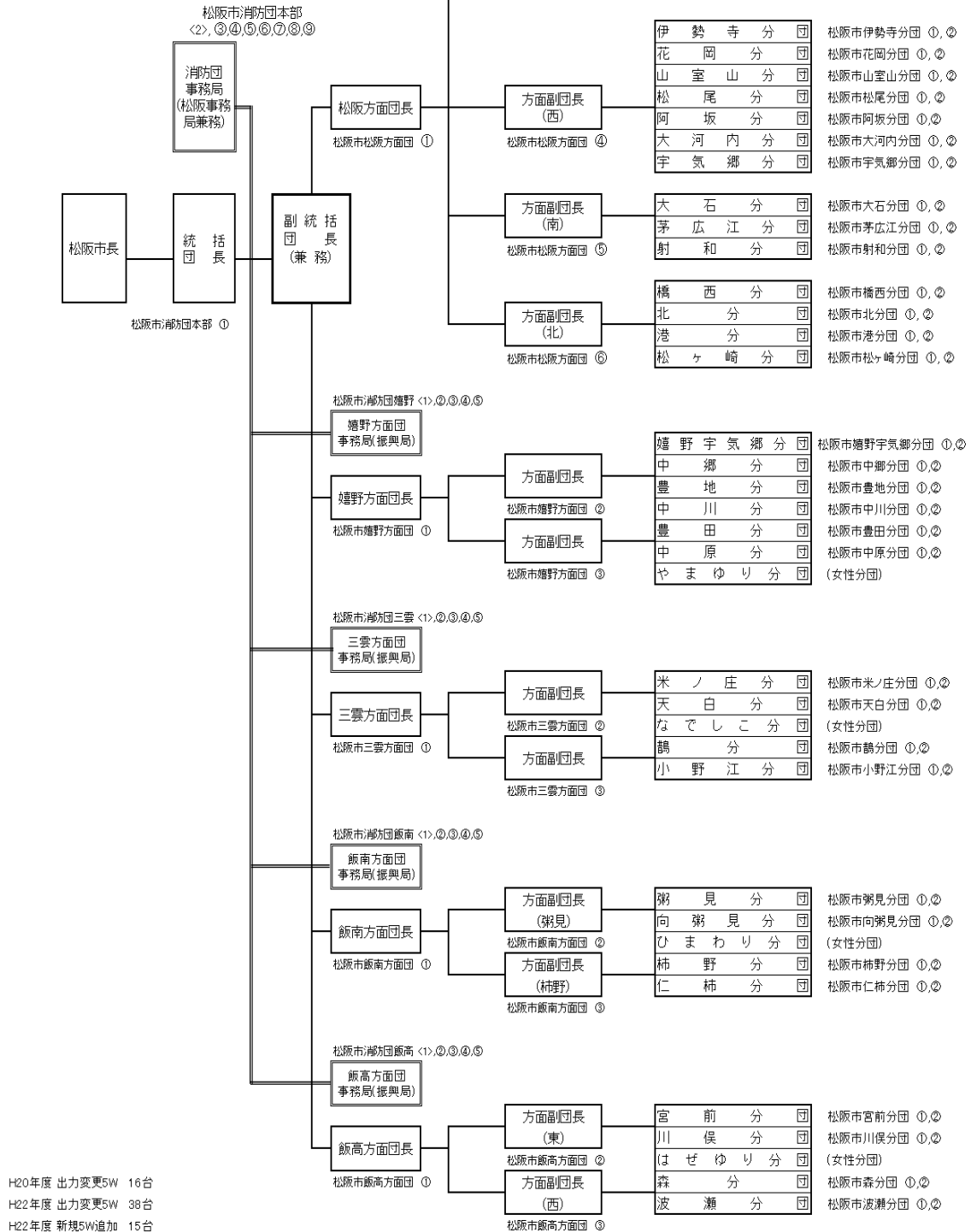
2010年9月6日

- 1) 松阪方面団及び松阪市消防団本部全て5Wに変更済 計63台
- 2) 嬉野、三雲、飯南、飯高各方面団の総ては5W 計52台
- 3) 松阪市消防団〇〇<1> 及び松阪市消防団本部<2> は、可搬型 10W 計5台
- 4) 携帯型無線機5W新規(各団本部へ3基追加) 計15台

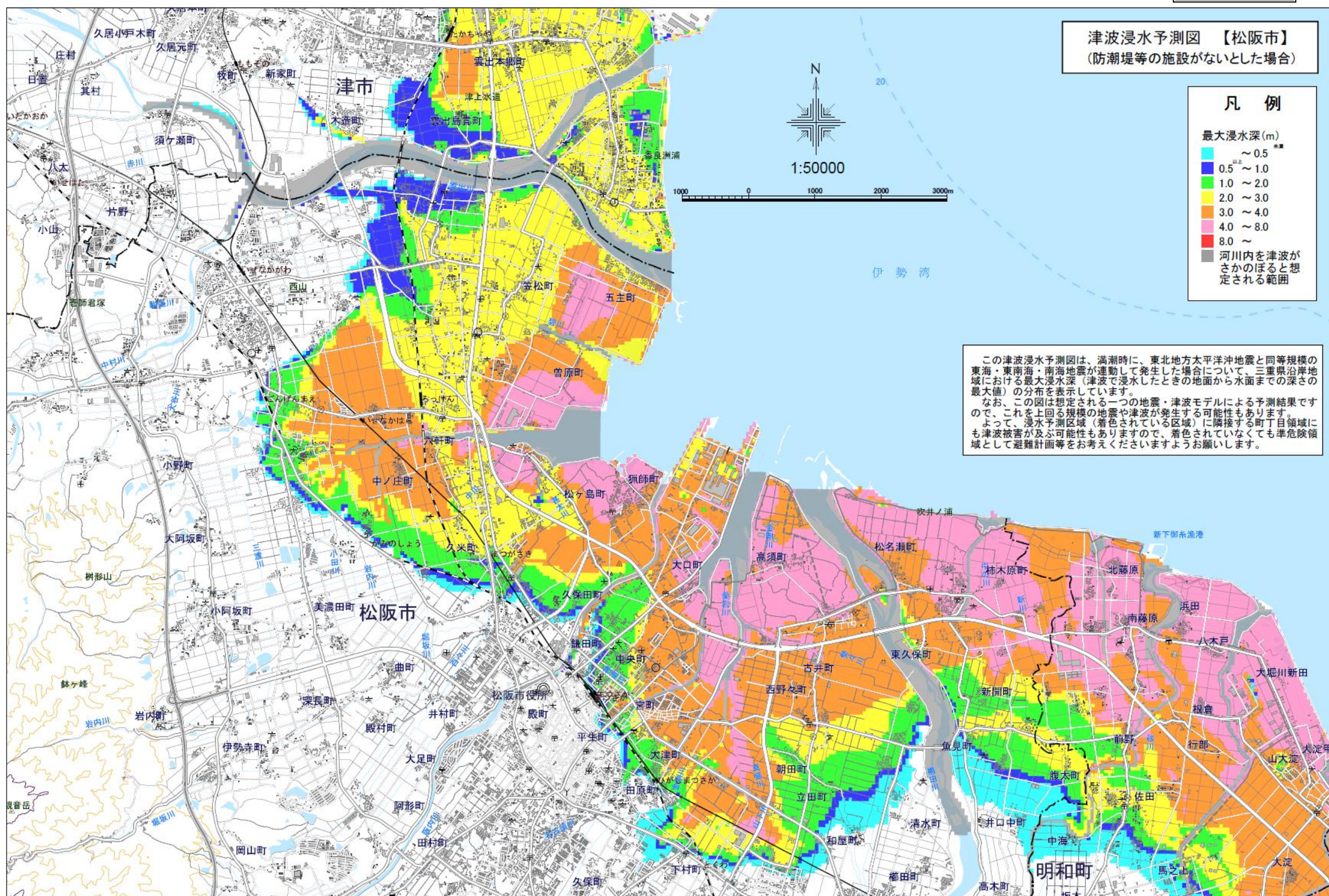
総計 135局

呼出名称 ○数字→5W

呼出名称 △数字→10W (消防団波及び松阪消防波搭載)

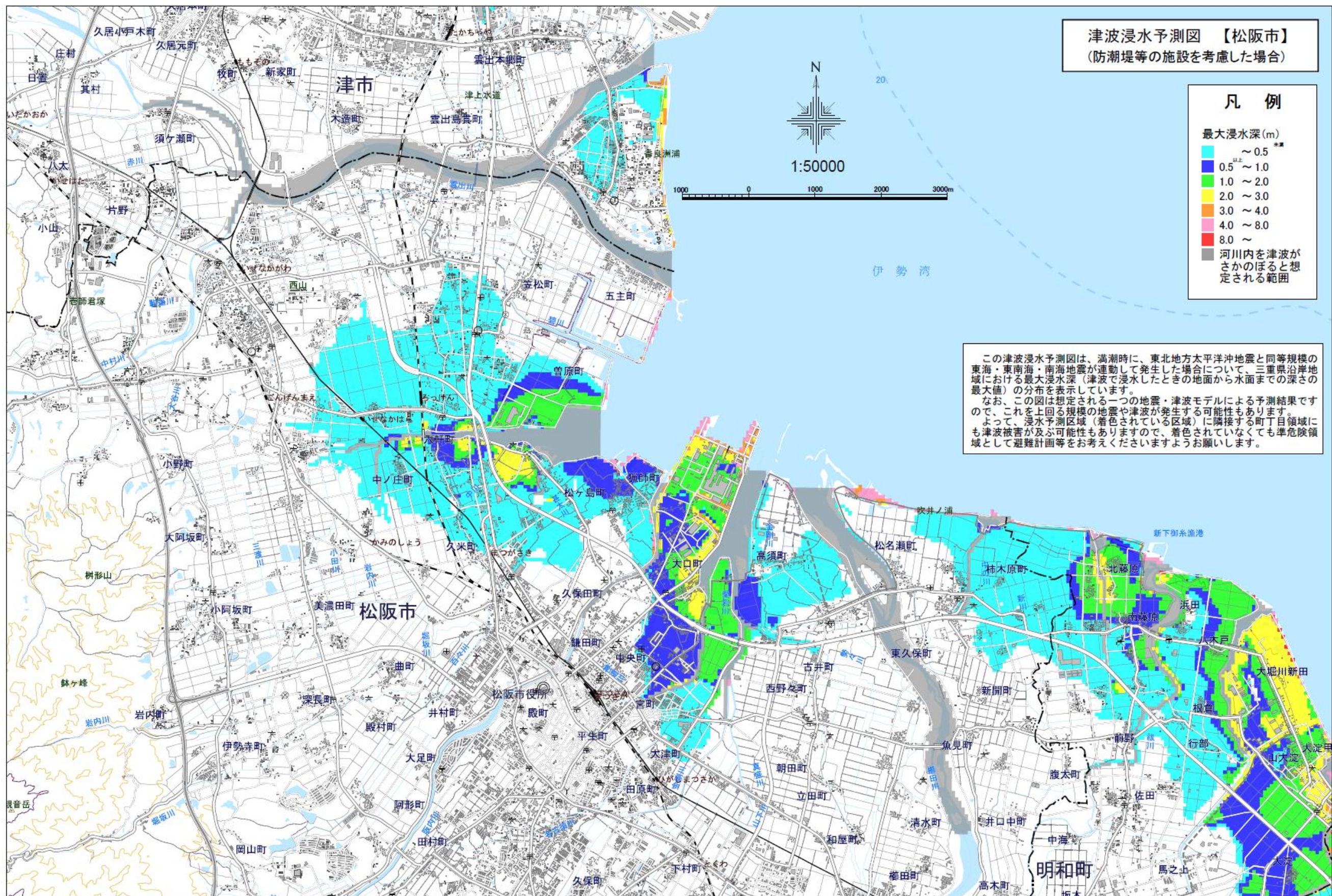


H20年度 出力変更5W 16台
H22年度 出力変更5W 38台
H22年度 新規5W追加 15台



この地図は三重県自治会館組合管理者の承認を得て、同組合所管の「2006三重県共有デジタル地図（数値地形図50000）」を使用し、調製したものである。（承認番号：三自治第138号）

三重県



この地図は三重県自治会館組合管理者の承認を得て、同組合所管の「2006三重県共有デジタル地図（数値地形図50000）」を使用し、調製したものである。（承認番号：三自治第138号）

三 重 県

松阪市消防団分団別ポンプ格納庫配備図





松阪市消防団

〒515-0818

三重県松阪市川井町 1001 番地 1 (松阪地区広域消防組合消防本部内)

松阪市消防団事務局 TEL 0598-25-1414 FAX 0598-21-3080